

2012年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施結果について —産学連携プログラム科目に対する学生の評価—

Student's evaluations to the subjects of Industry-University collaboration

1. 受講した学生による評価の アンケート調査の目的、方法

流通経済大学流通情報学部では、企業等の一線で働く方に講師を依頼し、複数の「実践講座、寄付講座」を開講している。2012年度の開講状況については、物流問題研究No. 59に掲載したとおりである。本稿は、企業講師による産学連携プログラム科目の内容の適切性・有効性を実証的に検証するために実施した、学生による授業評価結果について、報告するものである。なお、2010年度、2011年度の学生による授業評価結果はそれぞれ物流問題研究No. 56、No. 58に掲載したとおりである。

○アンケート調査方法・調査対象・回収数

- ・自記式調査票によるアンケート調査（無記名）
- ・産学連携プログラム科目である「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「日本通運寄付講座」、「全国通運連盟寄付講座」を2012年度に受講した学生
- ・アンケート回収数 221名

2. アンケート回答者の特性

アンケートは、それぞれの科目の開講の最終日に実施した。「ロジスティクス実践講座」

が61名、「物流マネジメント実践講座」が37名、「国際物流実践講座」が23名、「情報システム実践講座」が48名、「日本通運寄付講座」が24名、「全国通運連盟寄付講座」が28名の回答者となっている。2年生が31.7%、3年生が51.1%、4年生が13.1%、大学院生が4.1%となっている。「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」は2年生、他の科目は3年生が最も多くなっている。延べの回答者は日本人が65.2%、留学生が34.8%となっており、「ロジスティクス実践講座」、「国際物流実践講座」で留学生の比率が4割を超え、高くなっている。

最も興味を持っている分野は「物流」が38.6%、次いで「商業流通や経営」が27.3%、「情報」が16.4%となっており、学年別、日本人、留学生別にみても同じ傾向である。

将来就職したい業種は、「情報・通信業」(45.9%)が最も多い。続いて、「倉庫・運輸関連業」が40.8%、「小売業」が35.3%、「卸売業」が32.1%となっている。「陸運業」は29.8%、「海運業」は15.6%、「空運業」は19.3%となっており、物流系についても、関心が高いといえる。なお、日本人は「情報・通信業」が最も多く、続いて「小売業」、「倉庫・運輸関連業」となっているのに対して、留学生は「倉庫・運輸関連業」が最も多く、「情報・通信業」、「空運業」と続いている。

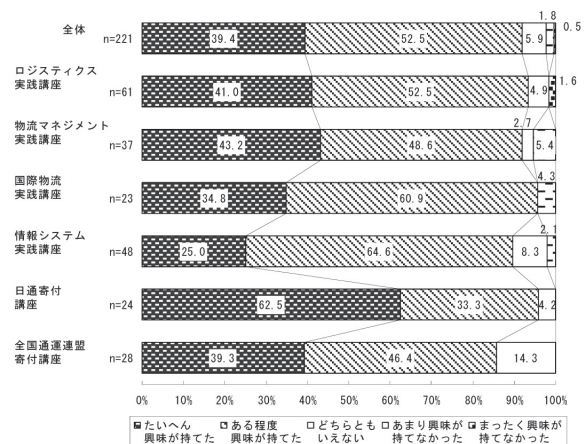
「情報・通信業」を希望している学生は「情報システム実践講座」、「倉庫・運輸関連業」を希望している学生は「全国通運連盟寄付講座」、「日本通運寄付講座」、「物流マネジメント実践講座」、「陸運業」を希望している学生は「日本通運寄付講座」、「国際物流実践講座」を受講している学生が多く、就職希望業種が受講科目の選択に反映している。

3. 産学連携プログラム科目に対する評価

3-1 産学連携プログラム科目に対する全体評価、満足度

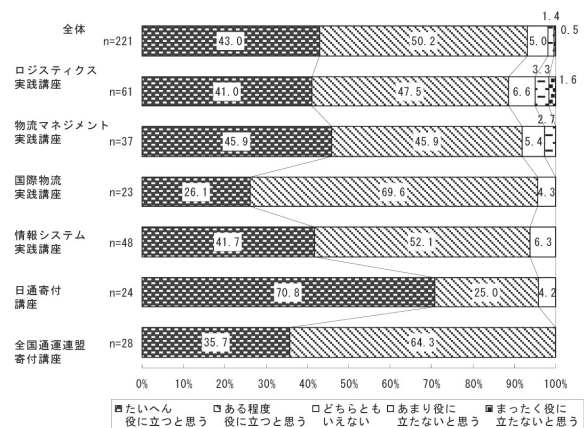
産学連携プログラム科目での実際の企業の事例紹介については、約9割の学生が「興味を持てた」と回答している。「たいへん興味を持てた」というのは、39.4%となっている。企業講師の講義内容は、事例を含めたものであることから、より具体的であり、わかりやすく興味を持てたという回答が例年通り多い。科目別にみると、「日本通運寄付講座」で「たいへん興味を持てた」というのが62.5%となっているほか、「ロジスティクス実践講座」、「物流マネジメント実践講座」、「全国通運連盟寄付講座」がいずれも4割前後となっており、多くなっている。学生の学年によつての差異は、大きくない。早い段階から、受講するのも意味があると考えられる。また、留学生については、「たいへん興味を持てた」というのが46.8%と比較的高く、日本の企業事例を直接学ぶことに対して、関心が高いといえる。

図表-1 実際の企業の事例紹介について



授業内容が他の分野や将来社会に出た時に役立つかということについては、役に立つと思う受講生が93.2%となっている。「たいへん役に立つと思う」が43.0%となっており、「日本通運寄付講座」では70.8%と高くなっている。学年別、日本人・留学生別には大きな差異がみられない。

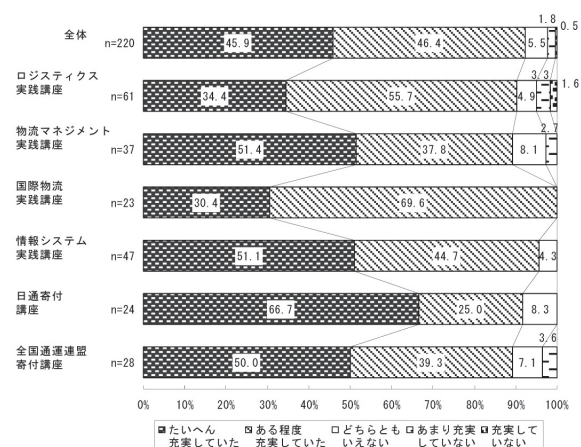
図表-2 授業内容が他の分野や将来社会に出た時に役立つか



授業内容の充実度については、93.2%の学生が充実していたと回答している。科目別にみても、すべての科目において、約9割の学生が充実していたと回答している。特に「日本通運寄付講座」、「物流マネジメント実践講座」、「情報システム実践講座」、「全国通運連盟寄付講座」では、「たいへん充実していた」という回答が、5割を超えている。学年別に

は大きな差異は見られない。

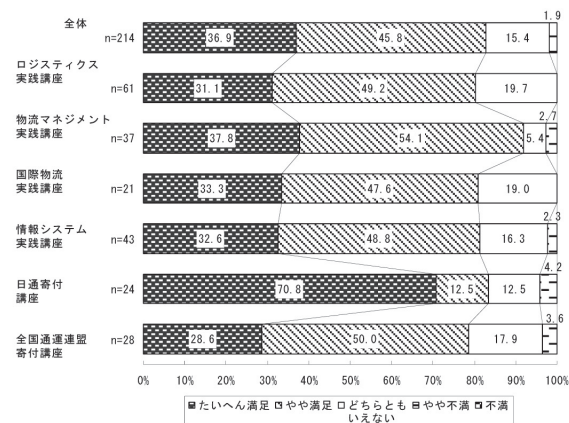
図表-3 授業内容の充実度



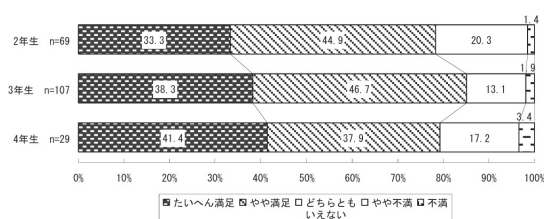
産学連携プログラム科目に対する満足度は、全体では満足が82.7%となっており、例年同様、高い結果となっている。科目別にみても、いずれも満足度が高い結果となっている。「たいへん満足」も3割を超えている科目が多く、「日本通運寄付講座」については70.8%と特に高い傾向にある。

学年別には、「たいへん満足」が2年生は33.3%であったのが、3年生は38.3%、4年生は41.4%と高くなる傾向がみられる。また、留学生で特に「たいへん満足」という回答が多くなっている。学年別、留学生におけるこの傾向は、毎年同じである。

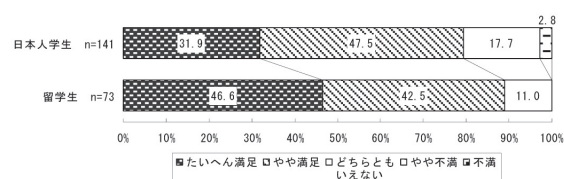
図表-4 満足度



図表-5 学年別満足度



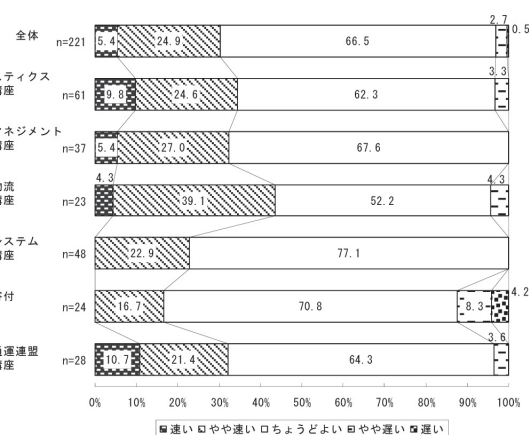
図表-6 日本人・留学生別満足度



3-2 産学連携プログラム科目の進め方等に対する評価

授業の進み具合について、全体では「ちょうどよい」が66.5%と、最も多くなっている。いずれの科目も、5割以上が「ちょうどよい」としている。ただし「速い」は5.4%、「やや速い」は24.9%という回答もある。「国際物流実践講座」で、「速い」、「やや速い」という回答が比較的多くなっている。留学生から、「やや速い」という回答が33.8%と多くなっている。

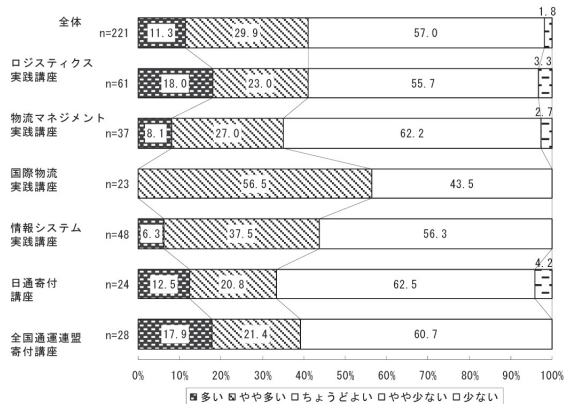
図表-7 授業の進み具合



授業内容の分量については、「ちょうどよい」という回答が57.0%と最も多いものの、いずれの科目も「やや多い」、「多い」という

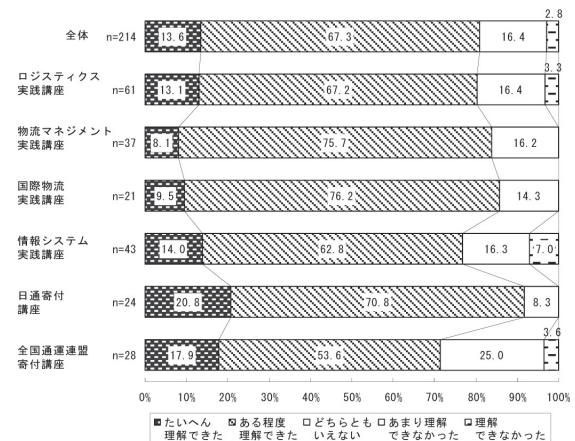
回答をあわせると4割前後となっており、昨年度とほぼ同様の傾向となっている。特に、「国際物流実践講座」では、「やや多い」という回答が56.5%となっているほか、「情報システム実践講座」、「ロジスティクス実践講座」でも「やや多い」、「多い」が4割を超えている。一般の企業人向けの講義では分量が多いことが望まれる場合も多いが、学生では理解しきれない場合も発生している。前年度使用した資料に、内容を追加している場合も多く、全体的には前年度より分量が増える傾向にある。多くの内容を紹介するより、要点に絞った説明にするよう、引き続き改善する必要がある。

図表-8 授業内容の分量



授業内容に対する理解度については、「ある程度理解できた」というのが、全体では67.3%と最も割合が高くなっている。どの科目においても、理解できたという比率はほぼ7割を超えている。学年別には、大きな差異がない。なお、2013年度から「ロジスティクス実践講座」では、講義の理解度を確認するために、毎回授業レポートを提出するようにした。

図表-9 授業内容に対する理解度



重点事項の整理・確認などをして授業を進めたかということについては、「十分にしてくれた」「ある程度してくれた」をあわせて74.7%となっている。なお、初回、最終回などにおいて、重点事項の整理・確認などの講義を設けるようにしている。

産学連携プログラム科目では、企業講師の授業に対する情熱を54.2%が「とても感じられた」、34.1%が「ある程度感じられた」と回答している。いずれの科目でみても、授業に対する企業講師の情熱を感じたという回答が多くなっている。企業現場での経験も含めて、学生に伝えようとする情熱が学生に伝わっていると考えられる。

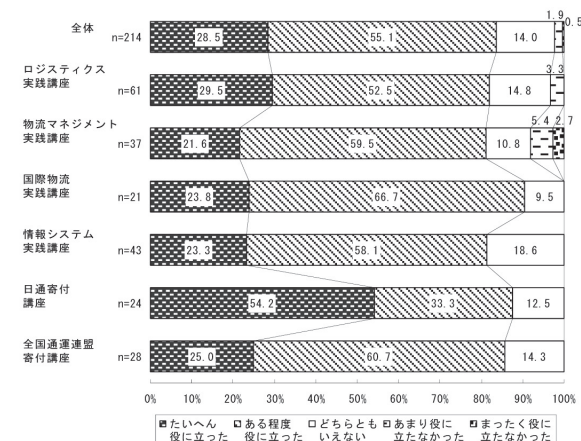
履修しやすさ、授業の進め方については「特に問題はない」が88.5%と最も多い。「半期科目なので履修しにくい」が13.4%となっている。

3-3 産学連携プログラム科目のその他の評価

産学連携プログラム科目は、83.6%が他の講義科目の理解を深めるのに役立ったとしている。このように産学連携プログラム科目は、その科目自体の評価が高いというだけでな

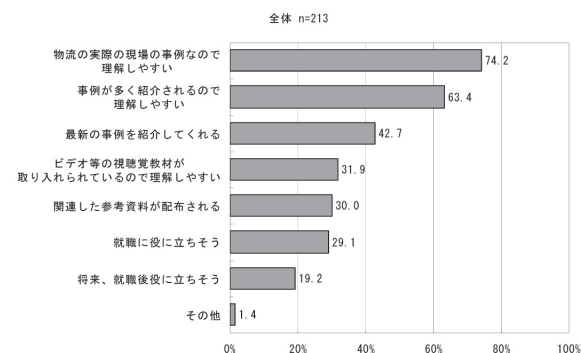
く、他の講義科目等での理解を深めるのに役立っており、その相乗効果は非常に大きいと考えられる。また、留学生において、特に役立ったという回答が多くなっている。

図表－10 他の講義科目の理解を深めるのに役立ったか



産学連携プログラム科目の企業講師による講義の良い点は、「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」が74.2%、「事例が多く紹介されるので理解しやすい」が63.4%となっている。さらに、「最新の事例を紹介してくれる」、「ビデオ等の視聴覚教材が取り入れられているので理解しやすい」と続いており、昨年度と全く同じ傾向にある。就職関連で役立つというよりは、理解しやすいということが特に評価されている。科目別にみると、いずれの科目も「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」が最も多くなっている。

図表－11 講義の良い点(上位3つ)



以上、産学連携プログラム科目の対する学生の評価は、例年同様、極めて高いものであり、全体の満足度は82.7%であった。産学連携プログラム科目を通じて、ロジスティクスに関して興味を持ち、充実していたという回答が多くなっている。

本プログラムの目的の1つは、一般の講義だけでは、ロジスティクスに関する知識の重要性が学生になかなか伝わらないことから、実際の事例をいれることによって実感として分かりやすくすることである。学生は、産学連携プログラム科目を、「物流の実際の現場の事例なので理解しやすい」、「事例が多く紹介されるので理解しやすい」といった理解のしやすさの点で、特に評価しており、さらに他の講義科目の理解を深めるのに役立ったとしている。今後も、一般の講義科目と連携して、実施していくことにより、教育効果をさらに高めることにつながると考えられる。

以上のように、産学連携プログラム科目の内容は、適切性・有効性という面から、高く評価でき、今後も継続して実施していくことが重要と考える。

注1：2012年度の産学連携プログラムの内容については、「2012年度のロジスティクス産学連携プログラムの実施状況について」物流問題研究No.59、19～30頁 (http://www.rku.ac.jp/distribution/doc/distribution06_05.pdf) を参照されたい。各科目の毎回のテーマ、講師について掲載してある。

注2：2010年度、2011年度の産学連携プログラム科目に対する学生の評価については、物流問題研究No.56、22～26頁 (http://www.rku.ac.jp/distribution/doc/distribution03_05.pdf)、物流問題研究No.58、20～24頁 (http://www.rku.ac.jp/distribution/doc/distribution05_05.pdf) をそれぞれ参考にされたい。

注3：「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」を実施するに当たり、業界団体、企業、教員の委員で構成される「ロジスティクス産学連携コンソーシアム」が設置されている。